

中学生および後期課程生 アンケートの実施結果

令和2年3月に策定した「第2期占冠村まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「中学生の占冠村への愛着度(令和6年度)を4.6点(5点満点)以上とする」ことを数値目標として設定しております。

現時点における愛着度の把握とともに、今後の施策の推進に当たっての具体的な希望などを把握するため、昨年度に引き続きアンケートを実施しました。

企画商工課地域振興対策室 ☎ 56-2124

【結果の概要】(回答者14人、回答率100%)

1. 占冠村への思いについて

占冠村への愛着度は4.6点であり、目標値を達成しました。

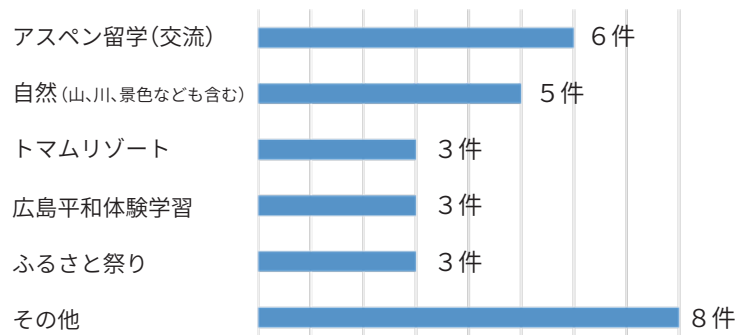
項目	点数	項目	点数
①山や川などの自然環境	4.6点	②治安がよく、安心して暮らせる	4.6点
③通学路などの道路の安全や通行のしやすさ	3.7点	④電車・バス・道路などの村外との交通の便	2.8点
⑤日常の買い物	2.9点	⑥学習環境	4.2点
⑦スポーツ活動	3.3点	⑧放課後の過ごし方	3.7点
⑨国際交流	4.8点	⑩地域の人たちとのつながり	4.9点
⑪イベント、伝統文化	4.6点	⑫暮らしやすさ	4.0点
⑬占冠村への愛着度	4.6点		



— アスペン市との姉妹都市交流 —

2. 占冠村の魅力について

回答総数28件(1人2つ回答)



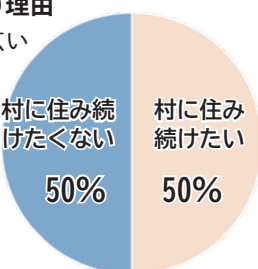
4. 占冠村に住み続けたいか、住み続けたくないかについて

○住み続けたい(戻ってきたい)理由

国際交流が良い。小さい頃からトマムに在るから。自分の子どもにも良き学生時代を送ってほしいから。釣りとか山菜採りが好きだから。みんなやさしくて治安がいいから。思い入れがあるし、いい村だから。…等々

○住み続けたくない(戻ってきたくない)理由

必要なものがすぐ届かない。もっと広い場所で生活してみたい。仕事がない。他の地域で仕事をしたい。出会いがない。高齢になったとき病院に通うことが難しい。買い物がしづらく交通が不便。虫が多い。…等々



3. 地域の人との関わりについて

地域の人があいさつをしてくれる(返してくれる)ことがうれしいとの回答が多く、また、気軽に話しかけてくれたり、野菜や果物をおすそ分けしてくれたことがうれしかった、などの回答もありました。



5. 将来の占冠村をどんな村であってほしい?



11/10(日)



村民フットサル大会

スポーツの秋に爽やかな汗を

占冠中学校体育館で「村民フットサル大会」が開催され、参加した3チーム16人が爽やかな汗を流しました。参加チームが例年よりも少なめでしたが、終始和気あいあいとした雰囲気の中でプレーが進み、大人も子どもも夢中になってボールを追いかける姿が見られました。また、好プレーをした選手や得点を決めた選手に会場からは大きな拍手が送られていました。

10/30(水)



身体障害者福祉協会ふれあい交流会

障がいを抱えても明るく楽しく

身体障がい者への理解を深めることを目的として、上川地区身体障害者福祉協会主催の「ふれあい交流会」が開催されました。同協会の会員の方々が参加し、占冠村コミュニティプラザでゲームを通じて交流した後、星野リゾート トマムに会場を移してリゾート内の施設見学やファームエリアでアクティビティを楽しんでいました。

11/16(土)



村民フロアカーリング大会

今年も白熱した試合展開に

占冠村コミュニティプラザで「村民フロアカーリング大会」が開催され、参加した8チーム34人が熱い戦いを繰り広げました。優勝したのは「五十嵐チーム」の皆さん。ベテランらしい見事なプレーで会場を沸かせていました。今回初めてフロアカーリングに挑戦したという参加者も、一投一投に一喜一憂しながら夢中で楽しむ様子が見られました。

11/11(月)



清流大学ふれあい授業

中学生と和やかに交流

占冠中学校で、清流大学生と中学生と一緒に授業を受けながら交流する「ふれあい授業」が行われました。授業は2班に分かれて行われ、理科室では寒天で作られた地層モデルを使って疑似的なボーリング調査を、家庭科室ではペットボトルのキャップを使ってしおりとキーホルダー作りを行い、最後は全員で給食を食べながら交流を深めていました。